

## ごあいさつ

日本語教育連絡会議の25周年という節目の年を、エアフルト大学において開催することができました。参加国はポーランド、チェコ、オーストリア、ハンガリー、ロシア、アイerland、ドイツ、セルビア、トルコ、スロヴェニア、ルーマニア、日本の12カ国に及び、発表内容は、日本語文法表現や最近の日本語使用現象の記述・分析、教育学理論と応用、学習者の意識調査、歴史研究、言語政策、地域の教室活動、教員養成、そのほかさまざまな授業実践（CEFR導入、合宿型国際ワークショップ、ディクテーション、多読、作文、会話、評価、文化、ケースメソッド、留学生対象の授業など）、新たに参加した教育機関についての報告、というように、たいへん多彩なものでした。異文化間教育としての調理実習という実践報告で、ひよこ豆のにがり不要の豆腐の話題で会場が沸いたのも、日頃日本食に不自由している参加者の集まる海外の会議ならではのこともかもしれません。欧州日系企業の実態・ニーズ調査に関する諸現場からの声もきけました。

発表や討論で充実した二日間のプログラムに加え、前夜祭、懇親会、打ち上げ、と参加者相互の交流も活発に行われました。旧東独の町エアフルトは、東西ドイツ合併後20余年の間に美しく生まれ変わり、はじめて来訪された皆様にも喜んでいただきました。

エアフルト大学で日本語を履修している学生たちが、開催前から自主的に、『エアフルトの歩き方』という冊子を作ったり、会議参加者の同行家族のためのプログラムを用意したりしており、現地の学習者と会議参加者との間で交流があったこともたいへん意義深く思います。

主催者側としていろいろと至らないこともあったかと存じますが、参加者の皆様のあたたかいご協力によって、密度の濃い日程をこなすことができました。あらためて御礼申し上げます。皆様にまたどこかでお目にかかるのを楽しみにしています。会議の今後一層のご発展をお祈りいたします。

エアフルト大学 言語センター  
仁科 陽江